

居蔵の館 (旧松田家住宅)

この建物は、うきは市吉井町の重厚な町並みを形成した土蔵造りのなかでも、完成度の高い代表的な居蔵家(いぐらや)のひとつです。

吉井は精蠟、酒造、菜種の製油など農産物の加工品を製造、販売することによって莫大な富を得ました。また、有馬藩の城下町久留米と天領日田を結ぶ豊後街道の宿場町として大いににぎわいました。やがて吉井の町並みは江戸末期から明治にかけて大規模な火災に見舞われることになります。そこで商家や地主は競って火災に耐えられるとともに富を誇示するような豪華な建造物を建てるようになりました。

道路に面した主屋を見ると、漆喰が塗られた壁、瓦屋根、軒の裏までも漆喰で塗り込められています。また、2階の窓は鉄製の扉によって覆われており、外部から延焼しにくい構造になっています。

幕末から明治、大正と繁栄をみせた土蔵造りの吉井の町並みも、第二次大戦後の経済・社会変動の中で、その多くが失われていきました。しかし、幸運にもこの建物は、関係者の理解に助けられて破却を免れることができました。

この「居蔵の館」は、明治末期に建てられ、大正初期に改築されたもので、精蠟業で財をなした大地主の分家として銀行経営に携わっていた当主一家が移り住んだものです。

戦後、しばらく空き家になって荒れていましたが、旧吉井町が譲り受け、復原し、ひろく見学者に公開することとなりました。

この施設は平成8年度に国土交通省街なみ環境整備事業により、土地、建物の購入及び保存修理事業を実施し、公開施設として整備されました。



いぐらのやかた 居蔵の館

(所在：うきは市吉井町 1103-1)

- 見学料：無料
- 見学・利用時間：9時～16時30分
- 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
- お問い合わせ先：うきは市教育委員会生涯学習課
TEL：0943（75）3343
FAX：0943（76）4724
居蔵の館（直通）
TEL：0943（76）5777



いぐらのやかた 居蔵の館



うきは市教育委員会



トイレの隣の浴室の天井も見て下さい。天井板が少しずつずらしてあり、蒸気が逃げるといったデザインになっています。



トイレに入ったら天井を見て下さい。屋根から換気ができるデザインになっています。



吉井町で数少ない“うだつ”「うだつが上がらない」の語源になっているもので、富の象徴だといわれています。



裏にある土蔵の鍵です。枝の形、長さはそれぞれの扉に合せてつくられています。



“組子”と呼ばれる障子飾。職人の丁寧な技がうかがえます。



昔からの箱階段



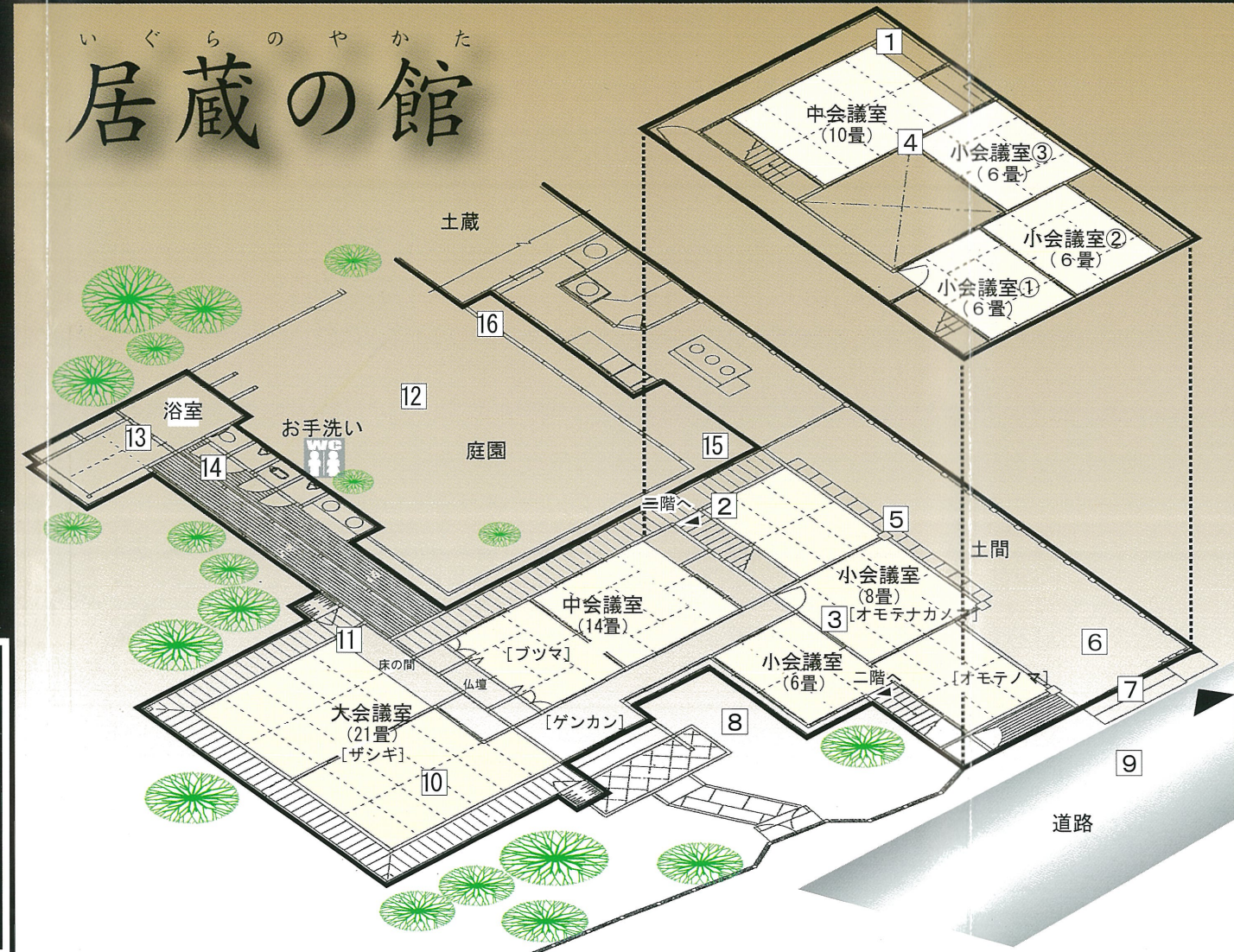
見応えのある吹抜と神棚



庭の隅にお地蔵さんがあります。探してみてください。



かつて、庭にはまちを流れる水路の水を引き込んでいました。



女柱といわれる大黒柱。柱の面が丸く削られています。



2本の大黒柱(男柱と女柱があるという説があります)材質はケヤキ。



施設内に入っすぐ見渡せる土間。数多くの柱や梁が重厚な空間をつくりだしています。梁の材質はマツ。ここは店ではなく勝手口で荷車が玄関と奥にある土蔵を往来していた空間であったといわれています。



屋根裏からは大正3年の改築時の棟札が発見されました。棟札には建築に携わった棟梁、左官等の名前が書き連ねられています。また、「国家安全」「天下太平」のほか家族と建物の繁栄を願って神様の名前が書き連ねられています。



床の間は縁は美しい漆が塗られており、普段は傷が付かないよう木製のカバーで覆っています。



周囲を庭、縁側で囲まれた角座敷。21畳の広さがあります。

三度の大火の経験から火災を防ぐ構造の建物が建てられました。二階は鉄の扉が設けられており、火に強い漆喰の壁はもろろんのこと、軒の裏までも漆喰で塗り込められました。



お客様を迎えるときはこちらの玄関を使用していました。



取り外し可能な入り口の溝。(現在は不可)荷車が通るときには外していました。